

一般会計収支

一般会計は歳入が204億1390万7千円、歳出が196億4015万7千円となり、歳入から歳出を差し引いた形式収支は7億7375万円の黒字、さらに、この額から翌年度に繰り越すべき事業の費用3592万7千円を差し引いた実質収支額は7億3782万3千円の黒字となりました。

一般会計 歳入

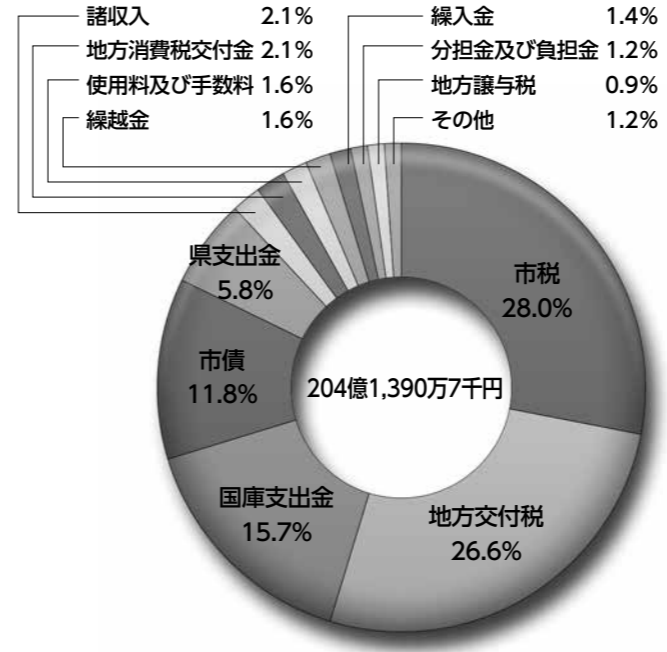
平成25年度の歳入は前年度に比べ0.2%増となりました。主な要因としては、繰入金が前年度に比べ7億4870万1千円、72.4%減、諸収入が3億8276万6千円、47.2%の減となったものの、国庫支出金が8億9666万3千円、38.7%の増、市税が4億5132万6千円、8.6%の増となったことが挙げられます。

市の収入で大きな割合を占めるのは、市民税や固定資産税および軽自動車税などの市税で、57億1498万3千円と、収入の28.0%を占めています。市税と並んで大きな割合を占めるのが、地方交付税です。

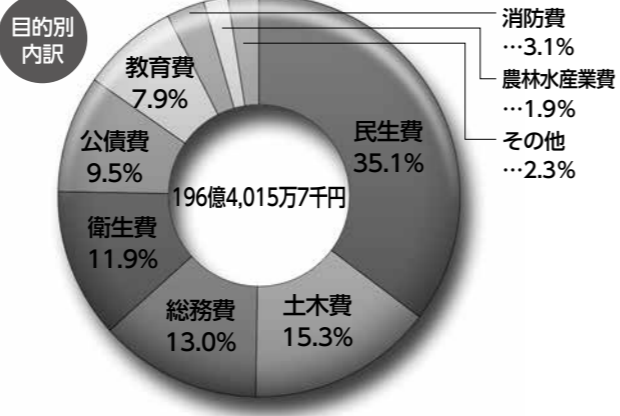
市の財政事情をお知らせします

9月議会において、平成25年度決算が認定されました。税金や国からのお金などがどのように使われたかお知らせします。

歳入の構成比

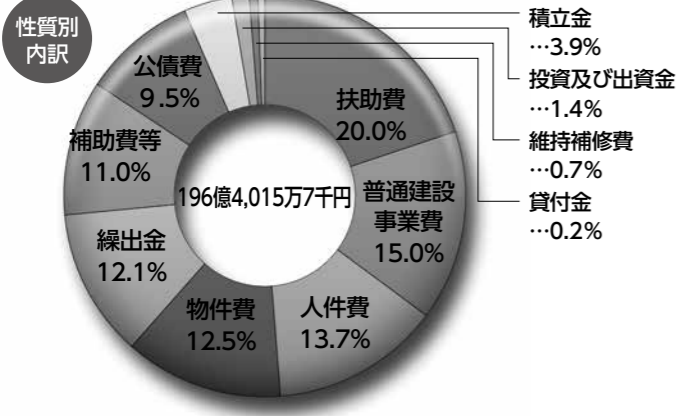


	平成25年度決算額	構成比
市税	57億1,498万3千円	28.0%
地方交付税	54億2,271万6千円	26.6%
国庫支出金	32億1,198万8千円	15.7%
市債	24億1,829万円	11.8%
県支出金	11億7,799万7千円	5.8%
諸収入	4億2,734万8千円	2.1%
地方消費税交付金	4億1,976万3千円	2.1%
使用料及び手数料	3億2,232万6千円	1.6%
繰越金	3億2,467万9千円	1.6%
繰入金	2億8,488万円	1.4%
分担金及び負担金	2億4,752万1千円	1.2%
地方譲与税	1億9,012万6千円	0.9%
その他	2億4,129万円	1.2%
計	204億1,390万7千円	100.0%



	平成25年度決算額	構成比
民生費	68億9,016万3千円	35.1%
土木費	30億888万2千円	15.3%
総務費	25億4,577万円	13.0%
衛生費	23億4,481万9千円	11.9%
公債費	18億5,790万1千円	9.5%
教育費	15億5,627万2千円	7.9%
消防費	6億343万2千円	3.1%
農林水産業費	3億6,739万1千円	1.9%
その他	4億6,552万7千円	2.3%
計	196億4,015万7千円	100.0%

歳出の構成比



	平成25年度決算額	構成比
扶助費	39億3,668万2千円	20.0%
普通建設事業費	29億4,440万1千円	15.0%
人件費	26億9,220万円	13.7%
物件費	24億5,523万5千円	12.5%
繰越金	23億7,008万1千円	12.1%
補助費等	21億5,941万5千円	11.0%
公債費	18億5,790万1千円	9.5%
積立金	7億7,845万9千円	3.9%
投資及び出資金	2億6,756万6千円	1.4%
維持補修費	1億4,199万8千円	0.7%
貸付金	3,500万円	0.2%
災害復旧事業費	121万9千円	0.0%
計	196億4,015万7千円	100.0%

地方交付税は国が徴収した税の一部を、自治体が等しく行政サービスを提供できるように、用途を限定せずに一定の割合で交付される交付金です。これは54億2271万6千円で、26.6%を占めています。

一般会計 歳出

平成25年度の歳出は前年度に比べ2.1%減となりました。目的別で見ると、土木費が西郷川リバー事業などを実施したまちづくり交付金事業の完了などに伴い、前年度と比べ5億72万6千円、14.3%減少したことや、教育費において、小中学校の老朽化施設改善事業が終了したこと、および小学校施設大規模改造事業費の減額などに伴い、前年度と比べ3億7165万5千円、19.3%減少したことなどが挙げられます。

性質別で見ると、最も大きな割合を占めるのが扶助費で、児童手当や障害者自立支援給付費などの増加により前年度と比べ1億9256万1千円の増となりました。次に大きな割合を占めるのが普通建設事業費で、こちらは前述の建設事業費の減少により前年度に比べ5381万9千円の減となりました。

用語解説

扶助費 …… 生活保護費や児童手当、障がい者支援費などに使われたお金

普通建設事業費 …… 道路や公園、学校などの建設事業に使われたお金

人件費 …… 職員の給与や手当、議員や各種委員の報酬などに使われたお金

物件費 …… 備品購入や消耗品費、業務の委託などに使われたお金

繰越金 …… 特別会計へ繰り出されたお金

補助費等 …… 各種団体への補助金や負担金に使われたお金

積立金 …… 基金(市の貯金)の積立に使われたお金

投資及び出資金 …… 水道事業などへの出資に使われたお金

維持補修費 …… 道路や施設の維持補修に使われたお金

貸付金 …… 中小企業融資貸付などに使われたお金

民生費 …… 高齢者や障がい者、児童などの福祉などに使われたお金

土木費 …… 道路や公園などの維持・整備に使われたお金

総務費 …… 総務管理、財産管理、企画、賦課徴収などに使われたお金

衛生費 …… ごみ・し尿処理、健康増進などに使われたお金

公債費 …… これまでの公共事業などのために借り入れたお金の返済に使われたお金

教育費 …… 公立学校や幼稚園、図書館などの維持・整備や社会教育に使われたお金

消防費 …… 消防団活動や防災事業などに使われたお金

農林水産業費 …… 農業、林業、水産業などの振興に使われたお金

その他 …… 商工観光の推進、議会運営、災害復旧などに使われたお金

用語解説

市税 …… 市民税や固定資産税、軽自動車税など市に納められた税金

地方交付税 …… 地方公共団体が等しく行政サービスを提供することができるよう、一定の基準により国が配分するお金

国庫支出金 …… 市が実施する特定の事業に対し、国から交付されたお金

市債 …… 市が行う公共事業などの財源として、国などから借りたお金

県支出金 …… 市が実施する特定の事業に対し、県から交付されたお金

諸収入 …… 市の預金利子や貸付金の元利収入など

地方消費税交付金 …… 地方消費税の一部を人口などにより按分して国から交付されたお金

使用料及び手数料 …… 施設使用料や公営住宅の家賃、証明書の発行のために納められたお金

繰越金 …… 前年度から繰り越されたお金

繰入金 …… 基金(市の貯金)や特別会計から繰り入れたお金

分担金及び負担金 …… 保育所の保育料や公共事業によって利益を受ける人から納められたお金

地方譲与税 …… 国税として徴収され、一定の基準により国から地方公共団体へ与えられるお金

その他 …… 市民からの寄附金や、財産収入として納められたお金など

特別会計

市には、国民健康保険事業や後期高齢者医療事業など6つの特別会計があります。特別会計は、地方公共団体が特定の事業を行う場合に、一般会計とは区別して経理している会計です。

平成25年度の決算額は表の通りで、全ての会計で黒字となりました。

区 分	平成25年度歳入決算額	平成25年度歳出決算額	差 引
国民健康保険事業	68億7,807万9千円	67億5,503万9千円	1億2,304万円
後期高齢者医療事業	8億3,860万3千円	8億3,378万4千円	481万9千円
介護保険事業	39億1,575万9千円	38億8,894万6千円	2,681万3千円
公共下水道事業	39億8,119万3千円	39億160万7千円	7,958万6千円
地域し尿処理施設事業	6,403万6千円	5,169万6千円	1,234万円
住宅新築資金等貸付事業	1,773万8千円	1,279万2千円	494万6千円

主な財政指標

各種指標	平成25年度	平成24年度	
財政力指数	0.524	0.524	
経常収支比率	88.4	88.9	
健全化判断比率	実質赤字比率	-	-
	連結実質赤字比率	-	-
	実質公債費比率	6.2	7.0
	将来負担比率	23.4	39.3
資金不足比率 (下水道事業)	-	-	

用語解説

● 財政力指数

市の財政が豊かであるかどうかを判断する指標。これは、市税などの標準的な収入で、合理的に行政を行った場合にかかる費用をどれだけまかなえるかを表し、過

去3年間の平均数値を使います。この数字が「1」に近いほど財政力が強いとされています。

● 経常収支比率

市にどれだけ自由に使えるお金があるかを見る指標。これは毎年決まって入ってくるお金(経常的収入)が給与や市債の返済などの毎年決まって支払うお金(経常的支出)にどれだけ使われているかの割合を示すものです。この数値が低いほど財政的に余裕があるとされています。

● 実質赤字比率

普通会計の赤字額から財政運営の深刻度をみる比率。

● 連結実質赤字比率

市の全ての会計の赤字額から財政運営の深刻度をみる比率。

● 実質公債費比率

借金の返済額などの大きさから資金繰りの危険度をみる比率。この比率が18%以上で地方債の発行について国・県の許可が必要となり、25%以上で一部の地方債の発行が制限されます。

● 将来負担比率

市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率。この比率が350%を超えると健全化計画の策定を行い、財政の健全化を図らなければなりません。

● 資金不足比率

企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率。

市債(市の借金)の借入状況

区 分	平成24年度末残額	平成25年度末残額	増減額
一 般 会 計	193億4,045万9千円	201億4,978万9千円	8億933万円
公 共 下 水 道 事 業	147億5,736万9千円	155億5,547万5千円	7億9,810万6千円
住 宅 新 築 資 金 等 貸 付 事 業	2,669万2千円	2,122万円	▲547万2千円
計	341億2,452万円	357億2,648万4千円	16億196万4千円

基金(市の貯金)の状況

区 分	平成24年度末残額	平成25年度末残額	増減額
財 政 調 整 基 金	49億8,146万5千円	54億3,900万1千円	4億5,753万6千円
減 債 基 金	5億6,460万1千円	7億2,386万2千円	1億5,926万1千円
特 定 目 的 基 金	48億9,108万3千円	47億7,400万9千円	▲1億1,707万4千円
そ の 他 の 基 金	1億681万9千円	1億2,628万6千円	1,946万7千円
計	105億4,396万8千円	110億6,315万8千円	5億1,919万円

平成25年度に行った主な事業

▶ 庁舎統合整備事業 397万4千円

庁舎統合を実施するにあたり、福間庁舎の施設整備に係る基本設計を実施しました。

▶ 津屋崎庁舎再生整備事業 471万6千円

統合後の津屋崎庁舎の活用方法について、市民意見を募集し、審議会への諮問・答申を経て、再生整備計画の策定を実施しました。

▶ 郷づくり推進事業 6,264万2千円

地域自治を進めるため、市内8地域の郷づくり推進協議会に、運営資金・活動資金として交付金を交付しました。また、平成24年度に用地を購入した福間南地域郷づくり拠点の施設整備工事を開始しました。



▶ 福間南郷づくり交流センター

▶ 世界遺産登録活動事業 1,717万円

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を目指し、福岡県・宗像市と共同した推進会議の事業として、平成24年度に引き続き専門家会議の開催および世界遺産推薦書原案の作成を行いました。また周知活動として、市の公用バスに新原・奴山古墳群を描いたラッピングを施し、世界遺産登録に向けたPRなどを行いました。



▶ ラッピングバス

▶ 認可保育所定数確保事業 3億8,560万1千円

日蔭野地区に平成27年度新設予定の保育所の用地購入を実施しました。また、双葉保育園の園舎建替および光明幼稚園が開設する認定こども園の整備に対し補助を実施しました。

▶ 乳幼児医療費支給事業 4,034万3千円

平成26年1月診療分から対象年齢を、通院は小学6年生まで、入院は中学3年生まで拡大し、子育て世代の経済的負担の軽減、疾病の早期発見・治療を行うことができました。

▶ 防災ハザードマップ作成事業 1,690万5千円

各地域の標高や、津波・洪水・土砂災害などのハザード情報、避難箇所などの情報を網羅した総合防災マップを作成し、各戸に配布することで、市民の防災意識の啓発に努めました。



▶ 福津市防災マップ

▶ ひとり暮らし高齢者等見守り事業 67万4千円

ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯などが地域で安心して暮らせるように、民生・児童委員の協力のもと、日頃から見守りが必要な高齢者などの情報を把握し、市全体の基礎情報の収集に努めました。また、地域で支援活動を行う団体に対しては、支援を必要とする対象者についての情報を提供し、地域支え合い制度の推進を図りました。

▶ 住宅用新エネルギー設備等設置補助金 2,896万7千円

新エネルギーの利用を促進するため、市民を対象として住宅用太陽光発電システムおよび家庭用燃料電池(エネファーム)の設置費の助成を行い、二酸化炭素排出量の削減を図ることができました。

▶ 福津ブランド戦略事業 1,107万9千円

福津市の認知度・知名度・ブランド力の向上のため統一的な地域ブランド化に取り組みました。この推進にあたっては九州大学との共同研究によるポスター作成や、マスメディア、キャラクター「ふくふくちゃん」などを活用してさまざまなイベントに参画し効果的な情報発信を行いました。

▶ 福間海岸市有地整備事業 3,547万円

市の「食の街道」の起点であり、観光資源でもある福間海岸沿いの市有地に駐車場を整備しました。

また、同敷地内に市観光協会が観光案内所および公衆便所を建設し、観光および「食の街道」の推進を図りました。



▶ 観光情報ステーション

▶ 駅東土地区画整理地区内公園整備事業 7,970万円

福間駅東土地区画整理事業地区内に12公園の整備を順次行っています。平成25年度は4公園の整備を実施しました。

▶ ふくつ自然塾整備事業 471万4千円

多彩で豊かな自然環境を生かした体験・交流により、多くの人に市の魅力に関心を持つ機会を提供することで、市の知名度・認知度向上を図るため「福津暮らしの旅」を実施しました。平成24年度まで実施した事業の結果を踏まえ、新たなプログラムを加えつつ事業を展開しました。今年度は23旅を計画し、通い旅を3旅、宿泊旅を2旅、日帰り旅14旅を実施して、208人の参加がありました。



▶ 福津暮らしの旅リーフレット